



●SDPフォーム壁高欄の橋梁上部工への採用が決定

総会ではSDPフォーム壁高欄が国土交通省近畿地方整備局発注の橋梁上部工で採用となったことが報告された。PC2径間連続ラ

ている都市型側溝「びったん溝」、港湾構造物で実績のあるケーブルトランプやステンレス鉄筋防風板の全国規模での普及拡大を図る。この他にも、ウェブサイトの内容を拡充し、PR活動を通じた新規会員の増強や会員間の情報伝達・交換を図る計画。

12月頃からの予定。

同工業会では現在、実用化段階に入った高耐久埋設型枠SDPフォーム(NEETIS・TH1120024-A)の普及拡大に向けた取り組みを強化している。高耐久埋設型枠がコンクリート工事の大幅な省人化に寄与するとして壁高欄工法や耐震補強工法への適用を念頭に、これまでWGの開催や東京工業大学との共同実験を通じて技術的な検討を進めてきた。

このうちSDPフォーム壁高欄工法は、足場を組まずに全て内側から施工できるのが大きな特長。SDPフォーム内に埋め込んだトラス治具によりセパレーターとの連結も容易で、壁高欄の急速施工、安全性の向上及び耐久性などの品質向上に大きく寄与する。8月には、会員社の東京セメント工業神奈川工場(神奈川県相模原市)でSDPフォーム壁高欄工法の試験施工を実施して、これまで検討を進めてきた外周SDP方式とユニット型枠方式の2

理想的な高耐久性埋設型枠「SDPフォーム」の実用化推進とPCa製品の新たな可能性を追求

新世代PCa工業会

会長 篠田 佳男

事務局 東京都墨田区両国4-38-1
日本コンクリート技術館内
TEL 03-5669-6653
FAX 03-3632-2970
URL www.new-pca.gr.jp

通りのSDPフォーム壁高欄の施工方法について、施工上のメリットや課題を検証済。

SDPフォーム壁高欄の橋梁上部工への採用が決定したことを受けて、今期はWG活動を通じて隣接型枠間の接合方法など施工方法の詳細について検討を進める他、検討結果を踏まえた技術資料を整備してSDPフォームの営業展開も強化する考えだ。

●SDPフォーム

SDPフォームはステンレス鉄筋で補強した高強度・高耐久性のプレキャスト埋設型枠。

埋設型枠の基材に水セメント比30%以下の高強度モルタルを使用

してコンクリートの緻密化を図り、構造体表面からの劣化因子の侵入を抑制することにより構造物の耐久性を向上することができる。

コンクリート工事における脱型作業を不要として、コンクリート工事の省人化・工期短縮に寄与し、構造物の品質を向上させる。埋設型枠は構造体の一部となるため、合板型枠材のように廃棄物として処分する必要がないので環境負荷も小さい。

鉄筋に極細径(D4・D5・D6)のステンレスを使用し厚さ15〜20mm程度まで薄肉・軽量化を実現すると同時にRC方式による設計が可能というメリットもある。

SDP壁高欄採用決定

新世代PCa工業会 定時総会を開催

新世代PCa工業会(会長 篠田佳男氏)は11月18日、江戸東京博物館会議室(東京都墨田区)で第12回定時総会を開催した。総会では平成27年度事業報告・収支決算報告、平成28年度事業計画案・予算案が原案通り可決承認された。



篠田会長

総会開催にあたり挨拶した篠田佳男会長は「今回の総会はコンクリート技術交流会に合せて久しぶりに東京での開催となった。我々はRC構造物の省人化・省力化・急速施工・耐久性向上の観点から、ステンレス(SUS)鉄筋を利用したプレキャスト製品の技術開発に取り組んでいる。技術交流会のパネルディスカッションでも話題となったが、高齢化による建設現場の人手不足が大きな問題となっている。人手不足に対応するには効率化を図る必要がある。工場での品質管理を行い現場では据え付けるだけのプレキャストが最適である。これは間違いない。

こうなるとプレキャストに対する期待が高まるのは自然の流れだが、生コンには現場で自由に形を造ることができないメリットがある。プレキャストと現場打ちコンクリート双方のメリットを上手く利用するやり方が望ましい。ただ、一方でゼネコンの技術力が低下しているとの指摘もある。私もゼネコンの研究所でコンクリートを正

人手不足は全産業的な問題であり、建設業界で若手入職者が減り建設技能労働者の高齢化がこれからも続くという状況下では、現場の生産性向上も必要だ。場所打ちコンクリートの場合、現場で型枠を組み鉄筋を配置してコンクリートを打設し、養生するという一連の作業工程を考えると、生産性を上げるというのはかなり難しい。特に近年は耐震性強化により鉄筋量が増え、養生管理も大変難しくなっている。

多様な技術開発に取り組み、さらに組織の拡充を図り、未来志向の技術集団として新たな課題にも取り組んでいきたいと考えている」と述べた。

議案審議は篠田会長

しく配合し、ジャジできる技術者が少なくなっていることを懸念している。つまり

を議長に選出して進められ、平成27年度事業報告・収支決算報告、平成28年度事業計画案・予算案が原案通り可決承認された。同工業会には新たに三和コンクリート工業(熊本県)が加入した。

今期はステンレス鉄筋で補強した高耐久埋設型枠「SDPフォーム」の普及拡大に向けて、設計コンサルタントへのSDPフォーム壁高欄のプレゼンテーション実施など、SDPフォームの適用に向けた取り組みを強化する。また建築工事を中心に採用実績を伸ばし

りコンクリートについて熟知しているのはセメントメーカー、混和剤メーカー、生コンメーカー、コンクリート製品メーカーということだ。これからは現場で常にコンクリートに接している皆さん方が、その技術力で地域に貢献するというワンステージ上の対応が求められるのではないか。

今日は別会場でGN(元気な生コンネットワーク)が技術発表会を開催しており、懇親会でコンクリート技術交流会と合流する事になっている。当工業会にも賛助会員としてセメントメーカー、混和剤メーカー、材料メーカーが揃っており、

